

次期学習指導要領 1枚まとめ｜高校

専門教科（産業教育） 高校

専門高校の学びを、AI・データと産業界との協働で強める

10秒でいうと 全専門教科でAI・データ活用と経営の学びを充実。課題研究は履修学年を示さない

農業・工業・商業など、専門高校で学ぶ専門教科の話です。学習指導要領の書き方を「何ができるようになるか」が分かる形に改める方向です。職業に関する全ての教科で、AIやデータサイエンスを使った学びと、経営やビジネスの学びを充実させる案です。産業界との連携は、出前授業などの単発で終わらせず、続く協働にすることが求められています。課題研究も、学校が柔軟に組めるよう見直す方向です。

1 「何ができるようになるか」で書き直す

今の専門教科は「〔指導項目〕を指導する」という書き方です。これを、「何ができるようになるか」が分かる資質・能力ベースの書き方に、抜本的に改めるべきとされています。観点の「知識及び技術」も、ほかの教科と同じ「知識及び技能」にそろえる方向です。P288

授業では たとえば科目のシラバスを、扱う項目の一覧からではなく、「この科目を終えたら何ができるか」から書き直すことが考えられます。

2 全ての専門教科でAI・データの学びを

職業に関する全ての教科で、AIやデータサイエンスを使った学びを充実させる方向です。専門教科の情報に関する科目は、「情報Ⅰ」の学びを土台に、専門分野での活用を深めます。専門教科の「情報」には、「データサイエンス、AI」の分野を新しく設ける方向です。P289 P294 P296

授業では たとえば農業科で、センサーで集めた温度や水分のデータを整理し、栽培の工夫を考える実習が考えられます。

3 産業界との連携を「単発」から「続く協働」へ

産業界との連携は約90%の専門高校で行われています。一方で、数回の出前授業や講演にとどまるなど、深さに課題があるとされました。今後は目的を共有し、計画から評価まで一緒に進める続いた関係の中で、理論と実践を行き来することが大切とされています。P287 P298

授業では たとえば地元企業と年度初めに目標を話し合い、課題研究の途中と最後に助言や評価をもらう形にすることが考えられます。

4 課題研究の見直しと、評価の工夫

「課題研究」は、解説で履修学年を示さず、学校が柔軟に組めるようにする方向です。導入の段階で、実社会の課題を探究する活動を入れるべきとされています。評価では、レポートや作品などのパフォーマンス課題を取り入れ、外部の人からの評価材料も生かす方向です。P289 P299

授業では たとえば作品の評価で、完成品だけでなく途中の記録や口頭での説明も組み合わせます。生徒自身が考えたかを確かめる工夫です。

ほかにも変わること（高校）

- 専門教科による「情報Ⅰ」の代替を見直し（安易な代替をしない） P289 P100
- 学習指導要領の書き方を「指導項目」ベースから資質・能力ベースへ P288 P293
- 「課題研究」の見直し：履修学年を示さず、導入段階で実社会の課題を探究 P289 P298
- 科目の統廃合・内容の精選と、指導内容を選べる構造 P288 P294
- 職業に関する全ての教科でAI・データサイエンス等を活用した学びを充実 P289 P291 P294 P298
- 全教科共通で経営管理・ビジネスの学びを充実、共通内容は基礎的な科目で P289 P294
- 産業界との連携を「単発」から「持続的な協働」へ P287 P289 P298
- 評価の改善：パフォーマンス課題と外部人材からの評価材料 P298 P299

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。